

記者発表				
月/日(曜日)	担当部署名	電話番号 (ダイヤルイン)	発表者名 (担当者)	その他配布先
1月22日(水) 14:00	県立考古博物館 埋蔵文化財課	079(437)5595	副館長兼総務部長 川由 伸一 (埋蔵文化財課長 鐵 英記)	県教委記者クラブ

## 玉津田中遺跡（神戸市西区平野町）の発掘調査成果と現地説明会について

### 内 容

一般国道2号第二神明道路建設事業に伴って、兵庫県教育委員会は、(公財)兵庫県まちづくり技術センターに委託して、玉津田中遺跡（たまつたなかいせき）の発掘調査を進めています。

調査の結果、弥生時代及び中世の集落跡が見つかりました。

調査成果を広く県民に公開するため、現地説明会を開催します。

また、当日は、兵庫県立考古博物館でも現地の様子を直接伝えるライブ中継を実施予定です。

#### 【調査成果】

別紙「玉津田中遺跡調査成果の概要」のとおり

#### 【現地説明会】

日時：令和2年1月26日(日) 13:30～15:00

場所：玉津田中遺跡発掘調査現場（神戸市西区平野町下村）

※ライブ中継公開場所：兵庫県立考古博物館（加古郡播磨町大中 1-1-1）

中継時間：12:30～13:00

#### 〈現地説明会にかかる問い合わせ先〉

玉津田中遺跡発掘調査現場事務所

担当 山田清朝副課長、園原悠斗技術職員

TEL：078-961-0678（平日 12:10～13:00、17:00～18:00）

#### 〈遺跡の内容にかかる問い合わせ先〉

(公財)兵庫県まちづくり技術センター

埋蔵文化財調査部次長兼調査第1課長 中川 渉

TEL 079-437-5561（平日 9:00～17:30）

兵庫県立考古博物館埋蔵文化財課長 鐵 英記

TEL 079-437-5595（平日 9:00～17:30）

## 玉津田中遺跡調査成果の概要

- 1 遺跡名 玉津田中遺跡（たまつたなかいせき）
- 2 遺跡の種別 集落遺跡
- 3 遺跡の時代 弥生時代・中世
- 4 所在地 神戸市西区平野町下村
- 5 調査面積 約1,700 m<sup>2</sup> (No.171 地点)
- 6 調査期間 令和元年5月～令和2年2月末（予定）
- 7 調査原因 一般国道2号第二神明道路建設事業
- 8 調査主体 兵庫県教育委員会
- 9 調査機関 (公財) 兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部  
担当 山田清朝副課長、園原悠斗技術職員

### 10 調査の概要

① 兵庫県を代表する弥生時代～鎌倉時代の集落遺跡である玉津田中遺跡は、昭和59年度から平成3年度にかけて土地区画整理事業に伴う発掘調査が実施されました。その後の調査の結果、遺跡の規模は南北約2km、東西約1km、面積は約1.5km<sup>2</sup>に及び、多くの土器とともに弥生時代の住居跡・墓、鎌倉時代の建物跡・墓・井戸などが多数見つかりました。

② 今年度、第二神明道路建設事業に伴って玉津田中遺跡の北西部を3地点（No.164地点、No.171地点、No.175地点）調査しました。今回は、そのうちNo.171地点の成果について発表します。

この調査地点から、弥生時代と鎌倉時代以降の遺構が見つかりました。

③ 鎌倉時代以降の遺構は、掘立柱建物跡・柱穴・土壇・溝があり、鎌倉時代に使われていた須恵器・土師器も出土しましたが、その量はわずかです。

④ 弥生時代の遺構は、前期（今から2,300年前）のものに限られ、土壇や柱穴・溝があります。土器・石器などが出土しましたが、特筆されるものに石棒1点、人形土製品（土偶）1点があります。

⑤ 石棒は、縄文時代に多く見られる祭祀具で、完全な状態で出土し、和歌山県や徳島県で産出される緑泥片岩でつくられています。弥生時代の出土は兵庫県内で9例目となり、神戸市内では、本山遺跡（東灘区）、<sup>きたおおき</sup>北青木遺跡（東灘区）、雲井遺跡（中央区）、大開遺跡（兵庫区）、戎町遺跡（須磨区）、宇治川南遺跡（兵庫区）について7例目、他に、<sup>よろやながせ</sup>丁・柳ヶ瀬遺跡（姫路市）と井手田遺跡（南あわじ市）で出土しています。

⑥ 人形土製品（土偶）は縄文時代の土偶と同じく祭祀に使用されたと考えられます。溝の中から頭部がほぼ完全な状態で出土し、顔の表情が確認できます。弥生時代の出土は兵庫県内で6例目となり、神戸市内では、雲井遺跡（中央区）、宇治川南遺跡（兵庫区）、長田神社境内遺跡（長田区）について4例目、他に、口酒井遺跡（伊丹市）と丁・柳ヶ瀬遺跡（姫路市）で出土しています。

石棒と人形土製品（土偶）が同じ遺跡から出土したのは、雲井遺跡、宇治川南遺跡、丁・柳ヶ瀬遺跡について兵庫県内で4例目となります。

### 11 まとめ

石棒と人形土製品（土偶）は縄文文化を象徴する一方、弥生土器や石包丁などは弥生文化を特徴づける要素で、両者が同じ調査区から一緒に出土している点が注目されます。これらは、縄文時代から弥生時代への移りかわりを知る事例と考えられます。

# 玉津田中遺跡 発掘調査状況写真



玉津田中遺跡調査区全景（南から）



弥生時代前期の遺構の調査状況



石棒と土器の出土状況

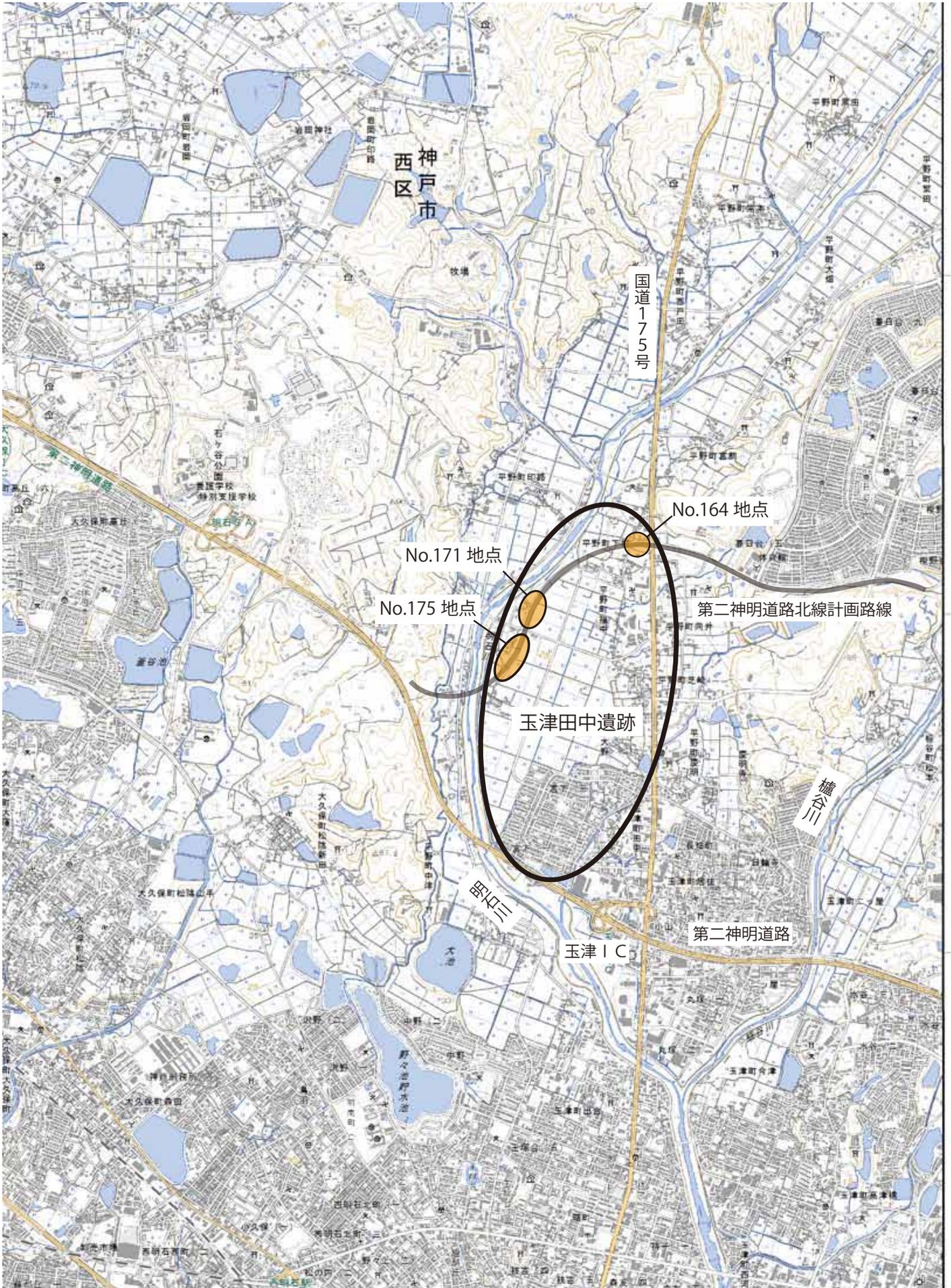


人形土製品（土偶）正面



人形土製品（土偶）各部名称

# 玉津田中遺跡 発掘場所



玉津田中遺跡 No.171地点1区 平面図

